

道◆糸に

こだわる

いい道具は使い手の力を引き出す。いい道具は使い手を勇気づけ、ときに孤独に寄り添う。かけがえのない出会いを果たしたモノ語りに耳を傾けたい。

歴代シューズはずっといい。喜びも苦しみも知る相棒です。

42・195kmを超えるマラソンをウルトラマラソンと呼ぶ。サロマ湖100kmウルトラマラソンは国内を代表する大会の一つだ。この過酷レースを10回以上完走した選手には「サロマンブルー」の称号が与えられる。内藤医師は2年前にその仲間入りを果たした。

走り始めたのは14年前。開業してクリニックに留まることが多くなり、運動不足を感じていた。目をつけたのが、シューズさえあれば自分の好きな時間にできるランニングだ。その翌年に北海道マラソン完走、

内藤貴文

1981年札幌医科大学卒業後、札幌医科大学整形外科・救急集中治療部助手を経て、1999年おおあさクリニック院長就任。2012年9月ないとうクリニックを開設し院長に就任。



ないとうクリニック

病気の自然治癒を目指し、全人的な医療を心がけている。
整形外科・リウマチ科・内科(訪問診療) 北海道江別市大麻東町14番地6 ☎011-386-8855



2年目にサロマに挑戦し見事完走する。走ることで得た副産物もある。「スポーツの患者さんの気持ちがかかるようになりました。特にランナーには自分の経験を伝えることができます。つい診療が長くなることもあるけど(笑)」。

シューズは長年アシックスを愛用。「甲が高い日本人に合う」から2年に一度新調する。すり減った靴底も染みついた汗も、共に闘った証だ。「苦しい。でもそれ以上の達成感があります」。その甘味の味は100kmを乗り越えた者にしかわからない。次なる目標は20回完走した人に与えられる「グランドブルー」。道のはまだ半ばだ。

サロマ湖100kmウルトラマラソンの完走者に贈られる歴代メダル



1 「サロマンブルー」だけが付けることを許されるブルーの専用ゼッケン

2 日々の練習成果を記録したランニングダイアリー。今はiPhoneにデータを記録している。大会3か月前からは月間300km走ることが目標。「走った距離は裏切りません」

アシックスのシューズ

